

インドネシア：パーム油プランテーションの人権と環境違反に関して、韓国企業に対する OECD 多国籍企業ガイドライン違反の苦情申し立て

インドネシア、パプア州のパーム油プランテーションでの人権と環境違反について、韓国の多国籍企業であるポスコインターナショナル、韓国国民年金サービス（NPS）、韓国輸出入銀行（KEXIM）に対して OECD ガイドライン苦情が提出されました。

苦情は、森林破壊と生物多様性の破壊を引き起こし、先住民から無料の事前インフォームド consent FPIC(Free, Prior and Informed Consent)を取得できず、人々の水利権を侵害することにより、POSCO がガイドラインに違反したと主張しています。訴状はさらに、NPS と KEXIM が、申し立てられた違反の発生を防ぐためのデューデリジェンスを実施しなかったと主張しています。

【概要】

公表日：2019年12月15日

パプアの対処されない傷跡：POSCO International および韓国の公的金融機関が、インドネシアのパプアでアブラヤシのプランテーションの運営に関して、OECD 多国籍企業ガイドラインに違反している

著者：韓国多国籍企業の WATCH, Yayasan PUSAKA, SKP-KAMe, & WALHI Papua
「パプアの対処されない傷跡」

2019年12月12日

POSCO International は、2011年にパーム油プランテーション会社 PT. BIA を買収し、PT. BIA の支配的オーナーになりました。34,195ヘクタールのコンセッションエリアと CPO 工場、さらに建設中の別の CPO 工場を所有する PT BIA の活動は、森林、河川、および森林と河川を生活の一部としている先住民に負の影響を及ぼしています。

PT BIA のプランテーションの開発に関して、FPIC(Free, Prior and Informed Consent)は実施されませんでした。たとえば、地区 A の使用権を取得する際に、PT BIA は関係者を特定できませんでした。問題となっている土地の慣習的な所有権を持っていない、間違っただけに補償が支払われたとされています。慣習や伝統に基づいたコミュニティからの同意は得られていませんでした。これは FPIC に反する行為です。先住民族は、コンセッションエリアに対する土地所有権の移転の意味を完全に理解していないことも報告されており、「インフォームド consent」ではなかったことを示しています。このように、PT BIA が、プランテーションの開発中の土地取得に関して、FPIC を実施していなかったのは明らかです。

PT BIA プランテーションの開発後、地域住民は水を飲んだり、日常的に使用することは

できなくなりました。また、川が濁っており、変形した魚や死んだ魚が見つかったことが報告されています。...さらに、地元住民には会社から水問題に関する情報が提供されていません。この意味で、Bian River の水質の悪化と、水への影響に関して影響を受けた人々への情報伝達の欠如は、水の権利の侵害に相当します。

[全文 \(英文\) はこちら](#)

CAUX
Round
Table